

パートナーSS

市民活動はまちの未来を創造する

特集

対談！

東日本大震災被災地を
静岡から応援し続ける
「しづおかおちゃっこ会」
「清水うたい隊」(2,3ページ)

災害時に活かすNPOの力

9月に静岡を襲った台風15号は、市内各地にも大きな被害をもたらしました。

2月25日におこなったセンターの利用登録団体連絡会議では、この経験を通じ災害に遭った際に自分たちの活動を支援に活かし今後どのような体制を作ることができるか、について熱心な話し合いが続きました。

団体のネットワークを活用した安否確認や情報共有、求められている支援への対応、など実際に取り組んできたことが次々に報告され、活動を通じてできたつながりが活かされことが感じられます。災害時に、自分たちが取り組んできた活動によって果たせる役割について整理し、どのような備えが必要かを確認する好機となりました。

また、3月10日には清水区地域総務課、静岡市社会福祉協議会の職員を講師に迎え地域防災を考える講座を開催。NPOだけでなく自主防災を担う自治会関係の方も参加し、今後に向けての活発な話し合いがおこなわれました。



令和5年度事業予定

継続する「チカラ」をつけるための組織基盤整備や環境づくりをサポートします。

情報	<p>センター事業、市民活動や助成金情報などの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌パートナー（偶数月 発行） ・しみず市民活動センター情報（偶数月 発行） ・ホームページ運営 ・Facebookページ、ここからネットの発信 ・メールマガジン（毎月 配信） 	講座	<p>啓発講座 市民活動入門講座</p> <p>人材・団体育成講座</p> <p>NPO法人向け実務</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業報告書作成講座 NPO法人の事務のお仕事カレンダー 活動計算書作成講座 <p>NPOの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報力向上講座 資金調達講座 <p>地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域防災講座 防災実践講座 <p>共催事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決に向け活動をしている利用登録団体との共催企画 *講座・イベントのほか、展示企画も随時募集します。
相談	<p>地域メディアとの協働事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FM-Hi ! 出演コーディネート（偶数月第1木曜） ・エフエムしみず 出演コーディネート <p>・認定NPO、NPO法人の設立や運営、解散等</p> <p>・NPO法人の定款変更や事業報告書作成等</p> <p>・団体の立上げや運営</p> <p>・助成金、資金調達</p> <p>その他、市民活動全般に関する相談に対応します。</p>	連携交流事業	<ul style="list-style-type: none"> 選考委員会の協議による入居選考 事務ブース入居団体定例会議による情報交換、交流 個別懇談によるサポート 相談等含め活動サポート
記念事業	<p>17周年記念事業</p> <p>利用団体のみなさまに実行委員として企画の段階から関わっていただき、実施します。</p> <p>* 6月初旬に実行委員を募集します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 利用団体連絡会議 9月／2月 センター事業の報告、団体間交流企画 団体同士が交流し、協力・協働につなげるマッチングの企画 地域とつながり、まちの活性化に貢献する「しみず七夕まつり」への参加他

静岡から東日本大震災被災地を応援する活動を続けてきた「しづおかおちゃっこ会」（以下おちゃっこ）と、「清水うたい隊」（以下うたい隊）。

息の長い支援活動を続けている二つの団体の活動をより多くの人に知ってもらおうと、清水市民活動センターでは「写真で振り返る12年のあゆみ～東日本大震災支援活動の記録～」を3月に開催し反響を呼びました。改めて両団体の活動を牽引するお二人にその思いをうかがいました。

きっかけはある若者のひとこと

望月一 きっかけは、私の職場にいた岩手県の山田町出身の若者でした。彼は故郷の役場に勤めたいという夢を持っていました。その彼が夢を叶えて1年が経過した頃に、東日本大震災がありました。しばらく連絡が取れず心配していたところ、やっと仮設住宅で暮らしながら、役場で震災の対応をしていることがわかりました。それで、2012年の夏に缶詰等の食料を車に積んで、妻と一緒に山田町まで届けたんです。その時に「大きな災害が起きて東北が大変な状況にあることを静岡の皆さんに伝えて欲しい」と彼が言ったんです。それが、自分に与えられた宿題だと感じ、何かできることは何か考えました。それで、清水区で活動していたことを東北でもやろうと思い、エレクトーンをマイクロバスに積み込み、山田町を訪問しました。これがうたい隊の最初のボランティアです。



◀ エレクトーン持参で集会所を訪問

東日本大震災の復興に寄り添う決心

倉橋一 そもそもきっかけは、中学2年生の時に経験した新潟県中越地震でした。新潟に向かっている途中で中越地震が発生したんです。現地に到着すると、道は地割れで通れなくなっている、知り合いの家が半壊しているという状況でした。この時に防災を勉強したいと思い、全国で唯一防災学部がある富士常葉大学に入学しました。そして2年生の時に東日本大震災が発生しました。津波の映像を見た時に、何かしなくちゃいけないと感じ、同

【対談】静岡から送り

しづおかおちゃっこ会
倉橋 賢広

東日本大震災後、福島県を中心に東北から静岡県に移住した避難者が主体となって活動する団体の副代表。番町市民活動センターを拠点に、毎月第3日曜日に避難者交流会をおこない、2023年3月11日で140回を数える。

年3月26日に大学の先生と一緒に宮城県仙台市に入りました。

その後も、岩手県や福島県にも行ったりしていましたが、大学4年の時に、宮城県の気仙沼市に拠点を置いて支援することにしました。この時には、東日本大震災の復興に寄り添っていこうと決めていました。卒業後は、社会人として働きながら東北に行くのが難しかったので、静岡で毎月集まるおちゃっこ会の活動でも復興の糸口になると感じ、活動を続けて気づけば10年以上が経過していました。

もっと被災地を知って応援しよう

望月一 東北へボランティアに行った時は、『学習活動』と『交流活動』もしています。ボランティア活動の移動時間を利用して、東北を見て学ぶのが『学習活動』、震災の経験をした人に当時の様子を語ってもらうのが『交流活動』です。もちろんボランティア活動が主ですが、年々学習活動、交流活動の比率が高くなっています。

倉橋一 静岡では大学に提出する願書の内容と一緒に考えたり、引っ越し先と一緒に探したりする等、段々と友達、家族のような関係になってきましたと感じます。何かあ

続ける復興へのエール

**清水うたい隊東北ボランティア
望月 光則**

市内の福祉施設等でエレクトーンの伴奏に合わせて歌い、楽しい時間を過ごしてもらう活動をおこなっている。2013年から、山田町や仙台市の仮設住宅等を訪れ、楽しい時間を過ごしてもらう「心の復興支援活動」を続けている。

った時に頼れる人がいないんですよ。故郷でもないですし、家族も年をとっています。

そういった時に、おちゃっここのメンバーが支えてくれる存在になってきたと思います。団体名の『おちゃっこ』という言葉は、東北弁でサロンという意味があるので、10年という時間の中で、その役割が増してきたように感じます。

望月一 おちゃっこさんのメンバーは、ファミリーみたいな存在ですね。私達も年1回の訪問にも関わらず、次の年も同じ町でやるとまた来てくれている人がいるんです。もちろん全ての人ではないですが、毎年こういったことが続いていくと、もっと東北を知りたい、もっと応援したいという気持ちが芽生えていって、自然と学習活動と交流活動が増えています。

若い世代に寄り添うサポート役として

倉橋一 僕たちは、建物が燃えていたり、船が乗り上げてしまった現地の様子を見てきました。若い子たちは、TVで建物がない更地や原発の影響で入れなくなった後の様子を『被災地』として見ていました。同じ被災地でも、見てきた風景が違うんですよね。だから、彼等が初めて

被災地を見た時の印象や感想を知りたいです。

望月一 10年前にもらった宿題を果たすためにも、私たちも若い世代を巻き込んでいく必要があると思っています。昨年の東北ボランティアでは、5人の高校生が参加してくれました。そして、彼等が東北で体験したこと、学んだことを市民に伝える報告会を開催しました。

倉橋一 その報告会は僕も参加させてもらいました。いい報告会でしたよね。12年たった今も震災は続いている。福島の家に帰ることはできても、周囲にお店がないので、まだ生活はできません。生活ができないので、明かりが灯らず、ゴーストタウンみたいになっています。先ほどの高校生達の世代が、主役となり、東日本大震災に寄り添っていくとしたら、どういったことができるのか考えていきたいですね。この時に若い世代に寄り添って、サポートしていくのも僕らの役割だと思います。

被災地と静岡をつなぐ架け橋に

望月一 何回も東北に行き、人に会い、色々と学んできました。それでも、まだ学び足りないことや出会っていない人がいます。だから、今後も東北に足を運びたいと思います。2022年に、『静岡と仙台きずなコンサート』を開催しました。来年度の計画も既にはじめていますので、おちゃっこさんにお声掛けできればと思っています。

倉橋一 ありがとうございます。毎年3月11日のキャンドルナイトには、たくさんの方からメッセージをもらいます。そのメッセージ付きのカップを並べて、『未来へつながる希望のひかり』という文字と飾りを作りますね。黄色いリボンには、『復旧・復興』という意味があり、キャンドルのひかりが、東北の未来へつながる希望になればと思い開催しています。これからも、静岡の多くの方達の想いや願いを、東北や福島につなぐ架け橋のような団体でありたいと思います。



静岡の魅力を知つてもらうことも
意識して運営

清水うたい隊 080-3618-8500 望月
おちゃっこ会 080-3633-2105 倉橋

NPOワンポイント

4月です！総会の準備を始めましょう。

3月31日に事業年度末を迎えたNPO法人のみなさんは、総会の準備が始まりますね。年度末から年度初めにしておきたい事務仕事を確認しましょう。

★総会までのスケジュール

総会日程を決め、会場の確保、議案作成のための理事会、監査の日程、会員への案内の予定を決めます。総会の招集をいつまでにするのか、は団体の定款に従って決めます。

★総会に提出する事業報告書等の準備

所轄庁に提出する事業報告書等は総会での議決が必要です。前出の理事会までに準備して検討しましょう。

★財務諸表類の確認

財務諸表とは、活動計算書、貸借対照表、計算書類の注記(該当箇所)、財産目録を指します。それぞれの書類の記載金額の整合性が取れているかの確認をお忘れなく！

★新年度の事業計画、予算案の作成

前年度の事業や予算の執行状況と照らし合わせて計画を立てましょう。その決定については団体の定款に従います。

事業報告書等の作成や年間を通しての事務作業については下記講座で詳しくお伝えします。

センター主催講座のお知らせ

時間や場所が選べる動画(YouTube)による講座です

NPO法人の事務力アップ その1 事業報告書作成講座

NPO法人が毎年所轄庁に提出する事業報告書は総会での議決が必要です。
監査、総会に備え書類の準備をはじめましょう。
役員や定款の変更についてもお伝えします。

- 配信期間：2023年4月17日(月)～7月7日(金)
- 講 師：清水市民活動センタースタッフ
- 参 加 費：無料
- 受講方法：センターHPまたはメールでお申し込みください。限定URLをお送りします。

NPO法人の事務力アップ その2 NPO法人の事務のお仕事カレンダー

NPOの活動と事務作業は車の両輪です。
年間を通して必要な事務のスケジュールを把握し計画的に作業を進めることで、団体運営を円滑に進めることができます。

- 配信期間：2023年4月17日(月)～7月7日(金)
- 講 師：清水市民活動センタースタッフ
- 参 加 費：無料
- 受講方法：センターHPまたはメールでお申し込みください。限定URLをお送りします。

しみず・ゴレなみに？ その55

清水区松井町稻荷神社の赤い鳥居と並んで存在感を放つ四角い建物。
昭和の早い時期から銀行として使われ、大きな地震や戦災をくぐり、その後40年以上使われない期間がありました。

現在はどっしりとした石のカウンターもそのまま生かし、レトロなカフェとして息を吹き返しました。

リノベーションをした店内でひときわ存在感を放つのはこの金庫。

「明らかな来歴は残っていないけれど、銀行創業当時からのものらしく、その重量は推定2トン、台座を固定するコンクリートは床の下まで続いている。」とオーナーの大石さん(写真左)が説明してくれました。

テレビ番組を通じ開錠したことがあるので、金庫の中身をご存じの方も多いのでは？

